

基本方向3 社会総がかりで子どもをはぐくむ活動に取り組みます

6 学校・家庭・地域等の連携の推進

子どもの教育において、家庭には、子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせ、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達が図られるよう、第一義的な役割を果たすことが期待されています。そして、学校園には、子どもの発達に応じた体系的な教育を組織的に行う役割があります。

近年、それらの家庭や学校園を支援しようとする取組が進みつつあります。例えば、地域住民が、学校園における教育活動に主体的に協力する動きが出てきているほか、学校園において、生涯学習関連施設を利用した授業が行われたり、キャリア教育等の教育実践で産業界等から協力を得たりするなど、さまざまな学習資源を活用した学習機会の充実が進んでいます。

このような取組をより活発にするため、学校園・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを更に進めるとともに、市民・NPO・企業・行政などと連携し、社会総がかりで子どもをはぐくむ活動に取り組んでいきます。

ここでは、次に掲げる目標の達成をめざして各施策を推進します。

施策目標 6-(1)	学校園・家庭・地域が連携し、人と人とのつながりの中で子どもを育てる教育コミュニティづくりを推進します
施策目標 6-(2)	生涯学習関連施設や産業界等の学習資源を活用し、体験や学習機会の充実を図ります

(1) 学校・家庭・地域の連携

施策目標 学校園・家庭・地域が連携し、人と人とのつながりの中で子どもを育てる教育コミュニティづくりを推進します

【現状と課題】

子どもは、家庭はもとより、学校園や地域から愛されて育てられた経験や他人との交流を重ねることで成長していきます。そのためにも、学校園、家庭、そして地域などが、子どもの教育におけるそれぞれの役割と責任を果たしながら、お互いに連携・協力を深めることでそれぞれの教育力を高めあっていくことが大切です。

本市の子どもの状況は、全国学力・学習状況調査の結果から、学力・体力ともに全国平均を下回る状況にあります。それらの向上の前提となる、家庭での学習習慣（「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」など）や基本的な生活習慣（「朝食を毎日食べていますか」など）においても課題が見られるところです。それらの課題の解決に向け、学校園と家庭がより一層連携し、子どもの学習習慣・基本的な生活習慣の確立や学習意欲等の向上を図る必要があります。

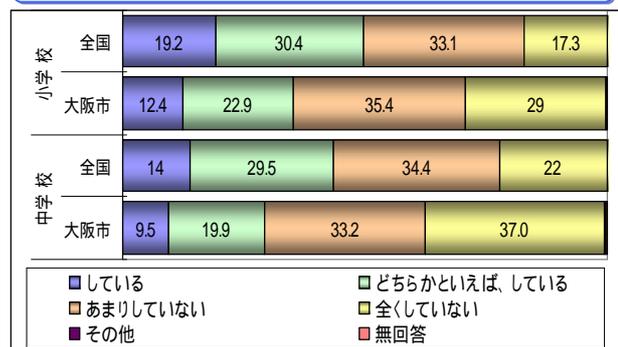
また、近年、本市では、学校園や家庭を支援しようとする取組が進みつつあります。例えば、市内全小学校区において、PTAや地域団体、学校関係者などで組織する「小学校区教育協議会 - はぐくみネット - 」を設置し、学校・家庭・地域が一体となって子どもをはぐくむ「教育

「コミュニティづくり」を区役所と連携しながら推進しています。併せて、中学校区において、地域の教育力を生かし、学校教育を充実するしくみとして「学校元気アップ地域本部」の設置を進めているところです。

その他、学校園では地域や企業などから知識・技能を有する人材の協力を得て、体験的な活動をはじめさまざまな活動の充実を図っています。また、学校園の運営において、保護者・地域住民等から評価を受けるとともに、評価結果を公表することを通して、信頼される開かれた学校園づくりに努めています。

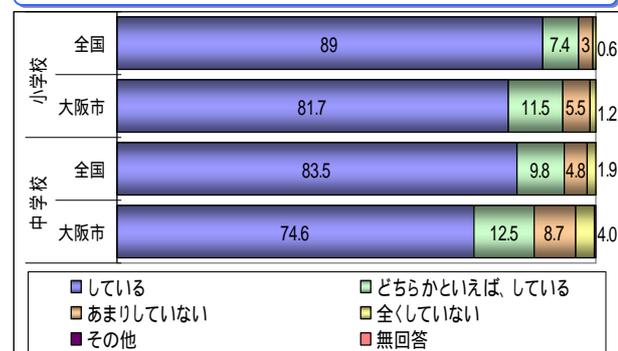
今後とも、学校園・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを支援するとともに、市民・NPO・企業・行政などが連携した教育活動を充実していくことで、人と人とのつながりを深め、社会総がかりで子どもをはぐくむ取組がより一層進むよう取り組んでいきます。

「家で学校の復習をしていますか。」



平成 22 年度全国学力・学習状況調査より

「朝食を毎日食べていますか。」



平成 22 年度全国学力・学習状況調査より

【施策の内容】

〔教育コミュニティづくりの推進〕

地域の実情に合わせて、地域全体で学校を支援するとともに、地域における教育課題の解決に協働して取り組むため、小学校区や中学校区を単位として、学校・家庭・地域が連携した教育コミュニティづくりを推進します。

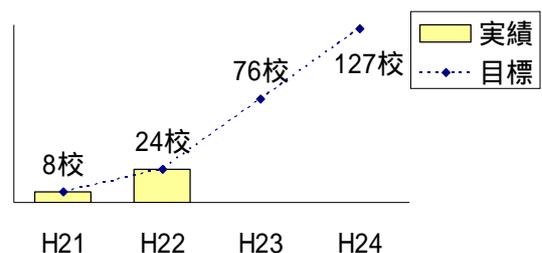
教育コミュニティづくりの推進に向け、学校の特別教室や体育施設等を活用し、地域住民

に身近で自主的な学習・スポーツ活動や交流の場を提供し、そこで学習した成果を学校の支援や地域における教育課題の解決に生かせるよう支援します。

また、教育コミュニティづくりの中核を担うコーディネーターの発掘を進めるとともに、コーディネートや活動に必要な知識やノウハウを伝える研修会を開催するなど、コーディネーターの養成に努めます。

学校教育においては、多様な知識や経験を持つ地域の人々とふれ合い、地域を知る活動などを通じて、子どもたちが地域を愛し、コミュニティの将来を担っていこうとする心をはぐくむとともに、その基盤となる道徳性を育成するための道徳教育の充実を図ります。

学校元気アップ地域本部の設置数



(代表的な取組)

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
小・中学校区における教育コミュニティづくりの推進	各「小学校区教育協議会 はぐくみネット」を支援				
	中学校区での「学校元気アップ地域本部事業」を拡充		各中学校区での「学校元気アップ地域本部事業」を支援		

〔地域と連携した学校教育の充実〕

学校教育において、さまざまな技能をもつ地域の人材と協働することにより、体験活動等をはじめとした活動内容の充実を図ります。また、教科指導や特別支援教育等において、学生ボランティア等の受入れを推進するとともに、部活動において技術指導者を招聘するなど、地域との連携により効果的な教育活動を推進します。

学校評価において、保護者・地域住民等で構成される学校関係者評価委員会から評価を受けることを通して、教育活動の改善を図るとともに、保護者等の学校園運営への参画につなげていきます。

(代表的な取組)

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校園を支援する人材の活用	推進				
学校関係者評価の活用・充実	全学校園に拡大して実施 評価をもとに改善しながら推進				

〔家庭教育や子育てへの支援〕

保護者が家庭において、子どもの発達段階に応じた適切な子育てや教育ができるよう、家庭教育に関する啓発や情報の発信、学習機会の提供を行います。また、PTAをはじめとする社会教育関係団体等が行う、家庭教育に関する学習活動を支援します。

小学校などに指導主事チームを派遣し、「子どもの『生きる力』をはぐくむ家庭の力」などをテーマに保護者との懇談会を開催し、家庭での学習習慣づくりや生活習慣の改善についての意識を醸成します。併せて、家庭学習用に使える学習教材を作成し、インターネットで配信することで、家庭での学習を支援します。

子育てについて身近な地域で相談できる場や情報を交換する機会などを提供し、保護者が子育てに関する情報やノウハウを習得できるよう支援します。

(代表的な取組)

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
家庭教育に関する 学習機会や情報 の提供					
	推進				

〔子どもの安全確保〕

各校区において、地域のさまざまな団体等の協力を得て、児童の登下校の見守り活動などの取組を進めます。

子どもや教職員の安全確保を推進するため、警察官退職者を「子どもの安全指導員」として配置し、小学校・特別支援学校等の巡回・自主警備を実施するとともに、メール配信等による防犯・安全に関する情報と連携し、学校・地域が連携した安全確保の取組を推進します。

区役所、学校園、地域団体、警察など関係機関等が密接に連携しながら、巡回による見守りや指導活動などを行い、子どもや青少年の問題行動の未然防止や早期発見を図ります。

(代表的な取組)

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
子どもの安全指導員 の配置(再掲)					
	継続実施				

【27年度までの目標】

学校園・家庭・地域等がさまざまなネットワークを活用して連携し、人と人とのつながりの中で子どもを育てる教育コミュニティづくりを推進します。

【成果指標】

- ・ 全国学力・学習状況調査の「PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか」の項目について、「よく参加してくれる」「参加してくれる」と答える学校の割合を全国平均以上にします。
- ・ 24年度までに、学校元気アップ地域本部を市内127中学校区に設置します。
- ・ 全国学力・学習状況調査の「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している」と答える児童・生徒の割合を全国平均以上にします。
- ・ 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」「あまり食べていない」と答える児童・生徒の割合を全国平均以下にします。

(2) 学習資源の活用

施策目標 生涯学習関連施設や産業界等の豊かな学習資源を活用し、体験や学習機会の充実を図ります

【現状と課題】

新しい学習指導要領では、子どもたちの社会性や豊かな人間性をはぐくむため、体験活動の充実を掲げ、子どもたちの発達段階に応じ、自然体験活動、文化的体験活動、職場体験活動など、学校教育における体験活動をより一層推進していく必要があるとしています。

本市においても、「生きる力」の核となる豊かな心をはぐくむ教育を推進するため、学校園の実態に応じ、全教育活動を通して体験的な活動を取り入れた指導に努めています。

本市は、図書館、博物館・美術館、青少年施設など豊富な生涯学習関連施設をはじめ、世界をリードする産業の集積を有するなど、全国でも有数の学習資源に恵まれたまちと言えます。それらの施設の有効活用や産業界等との連携により、体験活動や学習機会を充実させるなど、子どもたちの「生きる力」を育成するため、より効果的な取組を推進していくことが大切です。

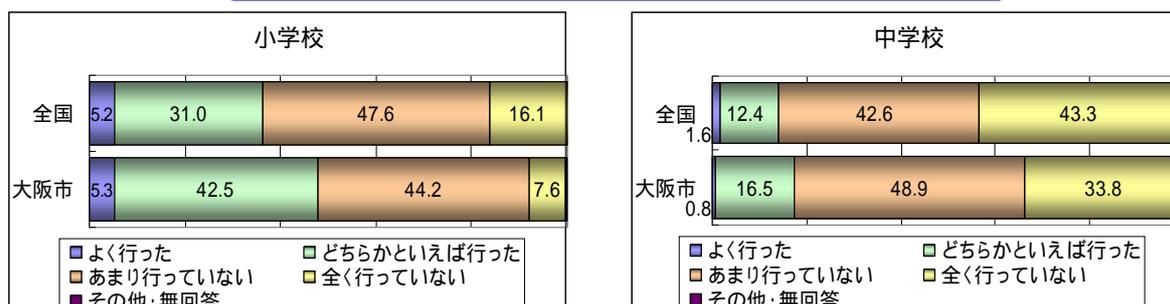
全国学力・学習状況調査では、「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか」という質問において、「よく行った」「どちらかといえば、行った」との肯定的な回答の割合は、全国と比べて中学校で3ポイント、小学校では11ポイント高いという結果となっています。その一方で、小・中学校ともに「全く行っていない」との回答もあり、生涯学習関連施設などの学習資源の一層の活用が望まれる状況も見られます。

一方、図書館、博物館施設では、専門的職員の経験や知識、資料・文化財・図書など、豊富な学習資源を生かし、情報提供機能や相談機能の充実を図るなど、子どもたちの自主的な学習や取組を支えるとともに、学校園や生涯学習関連施設等とのネットワーク化を進め、支援機能の強化を図っています。

また、産業界をはじめ関係機関が広く連携し、子どもたちに職業観・勤労観を醸成し、「生きる力」をはぐくむキャリア教育を支援しています。子どもたち一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育成するため、職業講話・職場体験学習等の取組の充実に努めています。

今後も引き続き、生涯学習関連施設の活用をはじめ、産業界や地域等のさまざまな学習資源を生かしながら、多様な体験活動やキャリア教育を推進するなど、学習内容の一層の充実を図っていくことが大切です。

「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。」



平成22年度 全国学力・学習状況調査より

〔図書館を生かした読書環境や学習環境の充実〕

学校図書館ボランティアへの資料・情報提供や研修・養成への援助など、学校図書館を活性化するための支援を行います。また、子どもたちの発達段階に応じて、学校での調べ学習を支援するため、バリアフリーや環境問題など、よく使われる図書を中央図書館・地域図書館に整備し、小学校に貸し出しを行います。また、市内の幼稚園や保育所等を対象に、絵本等の配本を行うとともに読書支援活動ボランティアを養成し読み聞かせなどを実施します。

各区の図書館を事務局として、区役所や子育て支援施設等の職員、小・中学校の教員、読書支援活動ボランティア、学校図書館ボランティアなど子どもの読書活動にかかわる関係機関及び民間団体・グループが、連携・協働して子どもの読書活動推進に取り組みます。お気に入りの絵本を公募し、大阪市の1冊を選ぶという取組など、子どもたちがさまざまな場所で、たくさんの絵本に接し、読書に親しむ機会をつくります。

（代表的な取組）

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
子どもの読書活動の推進（再掲）	全小・中学校において読書タイムを設定するなど読書活動を実施 ボランティアによる読書環境整備の推進 市立図書館の団体貸出等の活用				

〔博物館等の生涯学習関連施設などの活用〕

博物館をはじめとする生涯学習関連施設等の豊かな学習資源を学校教育に周知・活用するとともに、教科書の内容や学習の進度に応じて、体験的な学習や問題解決的な学習を行い、子どもの意欲や創造力の育成を図ります。

図書館や博物館、スポーツ施設などの多種多様な生涯学習関連施設等の学習資源や、学術や芸術、文化、伝統芸能などの文化的資産など、大阪市が有する多くの貴重な財産を、子どもや青少年の成長、子育てに有効に生かす取組を推進します。

（関連施設）

美術館、大阪歴史博物館、自然史博物館、科学館、キッズプラザ大阪、大阪国際平和センター、こども文化センター、クラフトパーク、青少年野外活動施設、スポーツ施設など

（代表的な取組）

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
博物館等施設との連携	推進				

〔産業界との連携〕

P T A や地域の人材の活用はもちろん、大阪商工会議所等の関係機関と連携して設立した「大阪キャリア教育支援ステーション」の協力を得るなど、企業などの産業界の持つ人的・物的資源を活用し、発達段階に応じた系統的・継続的なキャリア教育を推進することで、児童・生徒にしっかりした勤労観や職業観を醸成します。

国際ビジネス社会で活躍するビジネススペシャリストや、産業社会で活躍するものづくり人材などを育成するため、高等学校では、産業界と連携しながら、生徒の個性や創造性を生かせる専門分野の知識や技能を高められる学習機会を充実します。

(代表的な取組)

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
キャリア教育の推進 (再掲)	PTA・地域・産業界の物的・人的資源を活用したキャリア教育の推進				

【27年度までの目標】

図書館、博物館等の生涯学習関連施設や産業界等の持つ人的・物的資源といった豊かな学習資源を活用し、体験を重視した教育をはじめ学校教育の充実を図ります。

【成果指標】

- ・ 全国学力・学習状況調査の「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか」の項目について、「全く行かない」と答える児童・生徒の割合を全国平均以下にします。
- ・ 子どもを対象とした読書支援活動ボランティアを年間100人養成します。
(21年度末累計1,026人)
- ・ 市立図書館から学校へ年間45,000冊貸し出します。
(21年度末42,040冊)
- ・ 小・中学校において、職場体験学習、職場見学、職業講話など、学校や地域の実態に即した体験活動の実施率を100%にします。

7 「大阪らしさ」を生かした教育の推進

施策目標 郷土「大阪」を愛する心や自由で合理的な精神、進取の気性をはぐくむとともに、新しい大阪文化を生み出します

【現状と課題】

大阪は、いにしえより難波津を中心とした国際交流の拠点として栄え、日本の玄関口として、国内だけでなくアジアを中心に世界に開かれた国際交易・商業都市として発展してきました。また、17世紀以降は「天下の台所」と呼ばれる生産・流通の拠点、また国内最大の経済都市として栄え、多様な価値観を受け入れながら経済力を背景に町人文化が開花し、近松門左衛門、井原西鶴、山片蟠桃、緒方洪庵など、多くの文人や学者を輩出してきました。

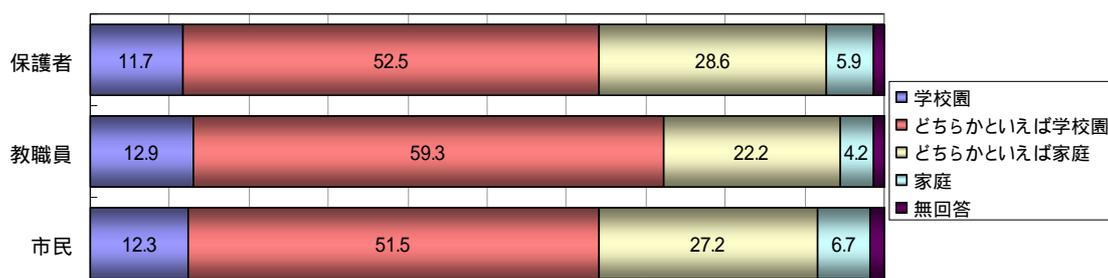
今もその伝統と文化は受け継がれ、進取の気性や自治・自由の精神が息づいているとともに、図書館、博物館・美術館、青少年施設など豊富な生涯学習関連施設をはじめ、世界をリードする産業の集積や数多くの大学を有するなど、全国でも有数の学習資源に恵まれたまちであると言えます。

本市では、「未来に向けてたくましく生きる『なにわっ子』の育成」を大きな目標とした「大阪市教育改革プログラム」を平成14年に策定し、この「なにわっ子」の育成をめざす重点目標の一つとして「『大阪らしさ』を生かした教育」を設定して、郷土「大阪」を愛する心の育成に努めてきました。

平成21年に実施した「教育に関するアンケート調査」において、子どもの育成・支援に関して学校園と家庭の役割分担を問う項目で「郷土『大阪』や地域を愛する心」については、「学校園」「どちらかといえば学校園」と答えた割合が市民・保護者とも約3分の2となり、この項目に関する学校園への期待が大きいことがわかります。更に、教職員では、「学校園」「どちらかといえば学校園」の回答が70%以上となり、教職員自身も積極的に郷土「大阪」や地域を愛する心をはぐくんでいこうとする姿勢がうかがえます。

しかし、全国学力・学習状況調査の児童・生徒への「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問では、肯定的な回答が全国平均より低い傾向がみられます。また、「将来の夢や希望を持っていますか」という質問では、「持っている」と答えた子どもの割合は全国平均とほぼ同等ですが、否定的な回答をする子どもも少なくありません。郷土「大阪」を愛する心をはぐくんだり、住んでいる地域に愛着や関わりを深めたりするとともに、未来の大阪に夢や希望を持つことができるような取組を更に進めていく必要があります。そのためには、豊かな

学校園と家庭の役割分担



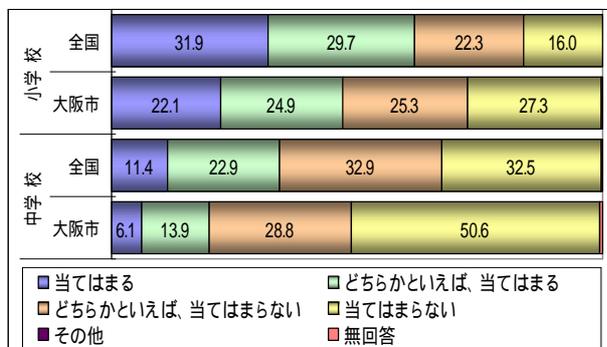
大阪市教育局「平成21年度 教育に関するアンケート調査」より

学習資源を活用して大阪の歴史や伝統、文化や産業などを学び、子どもが過去や現在の大阪を再発見し、歴史の中で今の大阪に生きている自分を見つめることを通して、新しいものを生み出す意欲や創造力を育成していくことが重要です。

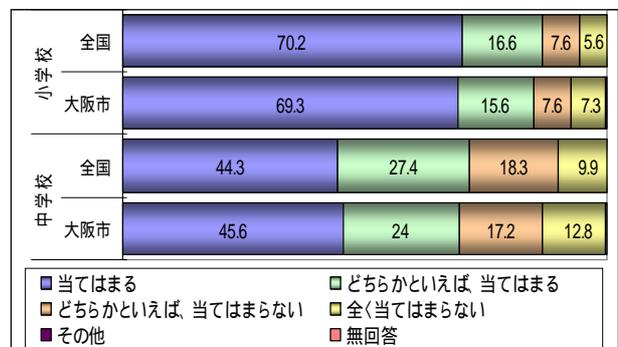
また、多くの外国籍住民が居住する本市では、多文化共生社会の実現は重要な課題であり、次代を担う子どもたちが、多様な習慣や文化を学ぶことによって、互いの違いを認め尊重し、国際社会の中で共に生きる力をはぐくむ教育の推進が求められています。

これらの現状と課題を踏まえ、身近な地域についての学びを進めるとともに、創造力やコミュニケーション能力など、多様な文化が交流する国際社会で生きる力を育成し、郷土「大阪」を愛する心と新しい価値を創造するための自由で合理的な精神や進取の気性をはぐくむ教育を推進します。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」



「将来の夢や目標を持っていますか。」



平成 22 年度全国学力・学習状況調査より

【施策の内容】

〔大阪の歴史・文化を生かした教育の推進〕

大阪に愛着が持てるよう、身近な地域や大阪の学習資源の積極的な活用を図り、地域や大阪を知る活動を推進します。例えば、博物館等が有する大阪の自然や歴史、芸術・文化等に関するさまざまな実物資料や副読本を活用したり、文楽や上方落語など大阪の伝統的な文化や芸能に触れたりする機会の充実に努めます。

中学校等の吹奏楽部への技術指導を大阪市音楽団の音楽士が担ったり、また、地域を知る活動に地域の人材を活用したりするなど、大阪の豊かな人材の協力のもと、教育内容の充実に努めます。

(代表的な取組)

取組名	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
博物館所蔵の大阪関係資料や街中に点在する文化財・遺産の活用					
	推進				
副読本「博物館・美術館資料で語る大阪事典」の活用					
	推進				

〔新しい「大阪らしさ」の創造〕

本市が、アジア交流圏の拠点として多文化が共生する都市をめざすとともに、ものづくりをはじめとした価値ある新しいものを生み出す都市をめざしていることを踏まえ、幼児・児童・生徒に多様な文化・習慣などの違いを認め尊重し合う態度や、「大阪らしさ」を伝え広めるコミュニケーション能力を育成するとともに、新しいものを生み出す意欲や創造力を育成するよう取組を推進します。

生涯学習関連施設などを活用し、主体的・積極的にさまざまな課題について調べる活動などを通して、幼児・児童・生徒の意欲や創造力の育成に努めます。また、自国の歴史や文化・伝統を尊重するとともに、多様な文化を理解し尊重する態度を育て、異なる文化を持った人々と共に生きていく資質や能力の育成を図ります。

高等学校から大学までの7年間を見据えた教育を行う新しいタイプの商業高校を新設し、大学や産業界と連携しながら、国際ビジネス社会で活躍する高度な専門性を備えたビジネススペシャリストの育成をめざします。また、社会で活躍するものづくり人材などを育成したり、スポーツ、言語、芸術などの才能を伸ばしたりするなど、次代の大阪を担う人材が個性や創造性を生かせる専門分野の知識や技能を高められる学習機会を充実します。

（代表的な取組）

取組名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
都市の持続的発展に資する 高等学校教育の特色化	新商業高校の校舎建設を完了し、初年度の指導計画の策定	新商業高校の開校	人材育成の推進		
	工業高校・普通科系高校のあり方についての方針の策定	方針の具体化に向けた検討・調整・実施			

【27年度までの目標】

「大阪らしさ」を生かした教育を工夫し、郷土「大阪」を愛する心や自由で合理的な精神や進取の気性をはぐくむとともに、新しい大阪文化を生み出す教育活動を通して、創造性と活力のある教育の推進を図ります。

【成果指標】

- ・ 全国学力・学習状況調査の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらとえば、当てはまる）」と答える児童・生徒の割合を全国平均以上にします。